〔追悼の記〕

近藤次郎先生の思い出

*電気通信大学大学院情報理工学研究科 知能機械工学専攻　宮　嵜　　武†

本学会名誉会員の近藤次郎先生は 2015 年 3 月 29 日に 98 歳でご逝去されました。心から哀悼の意をささげます。先生は 1917 年に滋賀県にお生まれになり、1941 年に京都帝国大学理学部数学科をご卒業され、さらに 1945 年に東京大学工学部航空学科を卒業されました。陸軍航空技術大尉、東大工学部講師、聖心女子大学教授を経て、1954 年に東大工学部助教授、1958 年に同教授に就任されました。1975 年からは東大工学部長、東大を離れられた後は、1977 年に千葉大工学部教授、国立公害研究所副所長、1980 年に同所長を歴任されました。また、1985 年から 94 年にわたって、学術会議会長を 3 期にわたってお務めになり、1994 年からは国際科学技術財団理事長に就任されていました。

近藤先生は日本流体力学会の発足当時からの会員でいらっしゃいましたが、空気力学ばかりでなく、応用解析学、システム工学、経営工学、環境科学など多岐にわたる専門分野で数多くの研究業績を残されました。また、各分野における専門書はもちろんのこと、啓発書も数多く執筆され、教育者としての貢献も計り知れません。さらに、行政的な手腕もとても高く、東大工学部長、国立公害（現在は環境）研究所所長、学術会議会長などの要職を歴任されました。そのご功績に対しては、1995 年に文化功労者、2002 年には文化勲章が授与され、誠に実り多い 98 年の人生を全うされました。

東大航空学科時代の近藤先生は、戦後中断されていた航空学科の再建にご尽力され、応用解析学的手法に基づく航空力学研究はもとより、YS11 の開発にはオペレーションズリサーチの立場から参画されました。また、1984 年に設立 10 周年を向えた国立公害（環境）研究所時代には、大気拡散風洞など各種の大型実験施設の設置の指揮を取られて、環境科学の中心的研究所としての基盤固めをされました。皇太子でいらした天皇陛下（美智子妃殿下と浩宮殿下をともなって）やミッテラン仏大統領など要人の来訪時には、流暢なフランス語なども使用されご案内役を優雅に務められていました。近藤先生のご説明はよどみなく、分かりやすく、そのまま文書にして出版できるのではないかとすら感じられるものでした。学術会議会長時代には、地球環境問題、脳死や尊厳死などの、とても重要な社会問題に精力的に取り組まれました。幅広い視野と時代を先取りするするどい感覚をお持ちの研究者でした。

私自身が、近藤先生に始めてお会いしたのは、東大工学部長として進学振り分けのガイダンスをされたときだったと思います。ご自身は京大理学部の数学科を卒業してから、進路を再考して（食えないので）、東大航空学科で学び直されたと、ユーモアを交えてお話しされました。とりあえず理学部（物理学科）へ進んでもなんとかなるかと、呑気に考えた私の人生を左右する出会いでした。遅ればせながら修士 2 年の夏に就職活動を始め、流体力学関連の航空宇宙技術研究所、防災科学研究所などを回りましたが、色よい返事は全くもらえません。困り果てていたところ、指導教員の橋本英典先生が国立公害研究所の近藤先生（副所長当時）に推薦して下さり、なんとかもぐり込むことができました。近藤先生は所長になられた後も新入りの私に声をかけて下さり、ゴルフをご一緒したり、官舎にお邪魔するなど、親しくお付き合いさせていただきました。聖心女子大学時代の皇后様に数学を講義されたことなど、楽しい裏話も伺えました。国際科学技術財団理事長としてお忙しくされている中、2004 年には第 100 回流体懇話会（電通大主催）の記念講演「ラプラスと演算子法」をお願いして、ご快諾いただきました（写真）。ご講演終了後の懇親会では、日本流体力学会の先生方（故佐藤浩先生、橋本英典先生、日野幹夫先生、大島耕一・裕子先生、故丹生慶四郎先生）と懇談されていましたのも、なつかしい思い出です。

*〒182-8585　調布市調布ヶ丘１－５－１
† E-mail: miyazaki@mce.uec.ac.jp

© 2015 日本流体力学会

3 月末の訃報に接し、なつかしいお声をお聞きすることができないのかと寂しい気持ちがこみ上げました。しかしその一方で、複素関数論、ベクトル解析、フーリエ解析などの応用数学科目を講義する度に、E. クライツィッグ著・近藤次郎監訳の教科書を手にしております。近藤先生は多くの名著を通じて、次世代の技術者・研究者を育て続けられることでしょう。